



弘前大学同窓会報

第 14 号

発行日 平成25年5月31日
発行者 弘前大学同窓会
題 字 吉田 豊 元学長



更なる教育の充実を目指して

弘前大学長 佐藤 敬

在り方を一貫して検討することとしました。今後、その検討成果が徐々に教育の場で現実化されていくものと期待しています。

また、本学の国際化の推進も、そのか

今年二月で学長就任から一年が経過しました。同窓会の皆様には、日ごろからお世話になっておりますが、この間に賜りましたご支援に対して特段の感謝を申し上げます。大変ありがとうございました。

この一年を振り返ってみますと、本当に短く過ぎたとの感を禁じ得ませんが、多くの出来事を経たきたのも事実です。イングリッシュラウンジや資料館の開設は遠藤正彦前学長の下で計画された

ものですが、お陰様でそれぞれ立派なものができました。本学の教育・研究にとつてきわめて重要なことだったと思います。

昨年の第十三号の同窓会報では、就任のご挨拶の中で「教育の充実」を第一の目標に挙げさせていただきました。その方針に従って、教育担当理事の下に教育推進機構を立ち上げ、教養教育を含めた学士課程教育全体の

とを推進するためには、なんらかの支援策も必要です。これまでの学内の支援策を見直しながら、限られた資源の中でより有効な方策を実施していきたいと考えています。

また、留学生の支援に関しては、地域の方々から大きなご支援をいただけてきました。そのことに改めて感謝申し上げますとともに、大学としてもより一層の努力をするこ

す。いまだそのような理想を実現するには至っていませんが、東日本大震災以降減りつつあった留学生の数も少しながら回復してきました。今後さらには、本学学生の海外留学も推進する必要があります。

これらの目的を達成するため、平成二十四年度には、中国の大連理工大学とタイのコンケン大学に拠点を開設しました。

これら拠点の実現には、両大学のご理解が最も重要な要因でしたが、今後

も国際交流の拠点を開設し、グローバル人材の育成に生かすことができればと願っています。留学生を迎え、本学の学生を海外に派遣するこ



同窓の皆さんへ

同窓会活動に理解と協力を

深めよう同窓の絆

同窓会会長 三上 翼

そのような状況の中で弘前大学の全学同窓会が設立されたのは平成十一年六月でした。

設立の主たる提唱者は当時の吉田豊学長を始めとする同窓の有志諸氏であり、平成十年の春、「大学創立五十周年を実施するにあたり各学部同窓会

が一体となり、母校・弘大の発展の礎として全学同窓会を創るべきではないか」との熱き想いが澎湃と醸成されたとのことであり、この熱き想いを担い、



太宰治自筆ノート

えていきたいと思っています。今後共、宜しくお願い申し上げます。

異彩放つ先人の業績



館内を進むと歴代学長(写真)が出迎える

待望の資料館オープン

弘前大学資料館が平成二十四年十月二十六日にオープンしました。資料館は「弘前大学 過去から未来へ」をテーマに弘大の前身である旧制弘高、青森医専、青森師範などの歴史や各学部などの研究成果を一堂に紹介しています。場所は教育学部南側一階で入り口は第一体育館に面したところで、館内は展示室と実習室・作業

室の二つのスペースに分けてあり、床面積は五百六十平方メートル。展示室には太宰治の自筆ノートをはじめ各学部で収集、所蔵してきた貴重な資料や戦火をくぐり抜けてきた品々や遺物、モニュメント、標本類さらに研究成果など展示しています。

この他、弘前藩時代の「津軽領元禄国絵図写」の四分の一のレブリカも展示。また、弘大が昭和三十九年から参加している弘前ねぶたまつりも3D映像で紹介するコーナーもあります。

入場は無料。

▽開館時間
午前十時から午後四時まで

▽休館日
土曜、日曜、祝日、休日、盆期間、年末年始

〈各学部等のコーナー紹介は次ページ以降に掲載しています〉
<http://shiryokan.hirosaki-u.ac.jp/>

員となつて旧・文理学部卒業生代表も参画して戴き、組織運営がなされる状況となつております。

主要事業と運営予算

事業運営の主たる予算財源は各学部同窓会からの入学定員数により較分された額を拠出納付して戴き、約ことし最近年次の予算規模は約四百万円弱で、事業としては会報の発行と大学文化祭併催事業(音楽会等)の実施が主なものとなります。

なお、これら事業は一般的事業であり、他に特別会計の事業として吉田豊学長(現・同窓会名誉顧問)が弘大生への国際化教育の支援を前提に基金創設の資金として五百万円を寄附して戴

たことから、これを「吉田基金」として位置づけ、TOEICの高得点取得学生(九〇〇点以上)を表彰することとし、これまでに三十六名の学生に授与してきました。

更なる理解と協力を

以上、同窓会設立の経緯ならびに事業運営の概要について纏々紹介させていただきました。今後とも私共の母校、国立大学法人弘前大学の活性化に向け、各学部同窓会が密接な連携のもとに相互の啓発を行い、各学部同窓会並びに弘前大学の発展に寄与・貢献することが出来るよう、同窓の皆様方には更なるご理解・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

現在の組織体制

設立後、十四年目を迎えた全学同窓会の組織体制及び役員は本会報末尾に掲載のとおりとなっておりますが、ご覧のとおり、各学部同窓会と旧制弘前高等学校卒業生も会

チーム・オール弘前の一年 ——二年目の野田村から——

人文学部教授 李^イ 永俊^{ヨシタケ}

東日本大震災から二年が過ぎました。世間では被災地への関心と記憶が薄れる中、「チーム・オール弘前」の支援・交流活動の定期便は二年目も正確に、規則正しく時を刻みました。

二年目の支援交流活動は、大きく二つの活動を軸に活動を展開しました。一つは、野田村の児童クラブで行っていた学習支援です。児童クラブで野田の子供達と一緒に勉強が出来ればと思い、活動を始めました。活動の当初は少し照れ



一緒にするまでには至っておりませんが、安心してじゃれあっている子供達の姿に大きな喜びを感じています。

弘前大学同窓会では、東日本大震災活動支援の助成を昨年度に引き続き行いました。この助成を利用された一部の団体より、現地の状況報告や、ボランティア活動をしてもらいました。

二年間の活動を経て

日野口 早希^{（平成25年 人文学部卒）}

チーム・オール弘前で取り組んできた野田村の復興支援交流活動に二年間関わってきました。振り返ると、瓦礫の撤去から始まり仮設住宅での交流活動を通して、この二年野田村の皆さんとの楽しい思い出ばかりでした。また、生活再建の度合いは人それぞれ異なるのが現状ですが、一年目と比べ野田村の方々の顔の見える関係がより深まったと感じています。その理由は二つあります。

一つ目は、一年目よりもより仮設住宅集会所での活動に気軽に足を運ぶようになり、顔見知りの方々はもちろん、弘前大学のビブスを着ているだけで、初めての方々も気軽に声をかけてくれるようになりました。顔見知りの方からは、現在の生活の様子をまるで親戚の大学生に伝えるかのよう

に沢山話されることもありました。中でも、震災当初お話しした時には、家と共に趣味のガーデニングで育てた沢山のお花を津波で全て流されてしまい、悲しい表情を浮かべていた女性も、二年目に訪問すると、玄関に多くの植木鉢を飾っていました。このような報告を聞くことが出来て、本当に嬉しく思います。

二つ目は、二年目の活動の中で野田村の子供達に向けた学習ボランティアが多く行われたことで野田村の子供達との交流が増えたことです。野田村の将来を担う子供達の笑顔を見られたことが、一番の喜びでした。また、野田村の子供達の遊び場になっていた公園が、津波で流されてしまったこ

ろしている村民からは、「いつも感謝している。冬は大好きな花や畑の世話も散歩もできない。体操や皆さんとお話しして楽しかった。私たちがここを旅立つ時まで居続けてくれると嬉しいです」「仮設の自宅ではなかなか大声で笑うことができない。皆さんと一緒に大声で笑えて、本当に嬉しかった」などの声もありました。

また、我々を快く受け入れて下さった野田村の皆様にも、心から感謝申し上げます。今後も活動を継続することで皆様への恩返しとさせていたただければ幸いです。

とを子供の口から聞いた時にはとても悲しい気持ちになりましたが、その分、今後も継続的に野田村に通い続けて行くことで、子供達への遊び場を沢山作ってあげたいと思いました。

私は三月に弘前大学を卒業しましたが、在学時の貴重なご縁を大切に、野田村の方々に会いに、そして野田村で食べた美味しいお弁当や海の幸をもう一度食べに、野田村に行きたいです。

弘前大学同窓会の手厚い経済支援の御陰で野田村への経済支援、そして学生につきましても野田村の味を覚えることが出来たことを、心より厚くお礼申しあげます。

平成二十四年四月から教育学部長を拝命いたしました。地域の教育の向上、教育研究の推進、教員養成の充実に力を尽くしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

就任早々の昨年六月に文部科学省から出された「大学改革実行プラン」に従って教員養成分野では「ミッシェンの再定義」が行われ、「青森県の今後の教員需要を踏まえた教員養成」「新課程に対する考え」「中教審の答申を踏まえた修士レベル化への考え方」「新しい教育課題に対する対応や

他学部との連携」「附属学校について」に関して意見交換が行われました。この席には、佐藤学長を始め、神田理事、江羅理事にも同席いただき、大学としての考えを文部科学省側に伝えていただきました。

教育学部長 伊藤 成治

教育学部が今まで取り組んできたこと、例えば、長期継続型教育実習の先駆的な取り組み、教職実践演習のモデルカリキュラムの作成、教育学研究科における教育職員免許取得プログラム、地域協働型教員養成等について一定の理解が得られたと感じています。

さらにはこれからは、総合大学にある教育学部・教育学研究科として、大学全体のミッションにどのように貢献できるのかを考えなければならぬと感じています。

教育学部が今まで取り組んできたこと、例えば、長期継続型教育実習の先駆的な取り組み、教職実践演習のモデルカリキュラムの作成、教育学研究科における教育職員免許取得プログラム、地域協働型教員養成等について一定の理解が得られたと感じています。

さらにはこれからは、総合大学にある教育学部・教育学研究科として、大学全体のミッションにどのように貢献できるのかを考えなければならぬと感じています。

また、動画でも様々な活動を見ることが出来ます。お近くにお出りの際は、是非お立ち寄り下さい。

雑感



——父の言葉を思い出しながら——
教育学部同窓会長 鈴木 弘

教職について間もなく「教師には視野が狭い傾向がある」と亡き父が穏やかな口調で話したことがある。その話をずいぶんと素直に聞けた記憶がかなり鮮明に残っている。爾来、その言葉を反芻したりしながらなんとか定年退職を迎えることができた。その間、わが身の狭さに気づかされたこと、反省すべきことは枚挙にいとまがない教員

生活でもあった。退職して間もなく、人権擁護委員を引き受けることになった。「人権意識の高揚を図り、住みよい社会を築くための活動」ということになるが、その主な内容は端的に言えば「啓発・相談・救済」である。

現職時代、人権意識の決して高くはなかったかもしれない私だが、ここで大きく目を見開かされる思いがした。

相談者の悩みはいじめや虐待、性別や病氣への偏見と差別等々千差万別であり、まさに人間の悲しさ、つらさ、むなしさ、憤りそのものであるような気がする。この悩める人たちに寄り添い、心と耳を傾け、自分にできる範囲でのささやかなアドバイスをしたりする。Kくんがいる。五十歳ぐらいだろうか。かつて勤務した学校の生徒であった。担任でもなんでもなかったが、二十年ほど前からか頻繁に電話や手紙をくれる。家族のこと、

心身不調のこと、入院のことなど、そこには彼のつらい思いが詰まっている。私はできるだけ早く返事を書くようにしている。ほとんど孤独な彼には話を聞いてくれる誰かが必要なのだ。その一端なら私も担うことができる。先日入院したという封書が届いた。病院名も何も書いていない。特別なことはできないけれど、彼に思い出してもらい、電話してもらえ存在していることはできる。また、ふと、父の言葉を思い出す。



資料館入り口（教育学部南側）

教育学部ブース

資料館から
学部校舎南端の入り口を入り「太宰治自筆ノート」を横目に見ながら、弘大ねぶたのコーナーを右折すると「教育学部ブース」が現れます。「ラボ・パスプロジェクト」や各学科の活動、青森師範から現教育学部



までの歴史の紹介が貴重な写真と共に展示されています。また、動画でも様々な活動を見ることが出来ます。お近くにお出りの際は、是非お立ち寄り下さい。

医学部医学科

解剖学教室の使命



大学院医学研究科生体構造医科学講座
神経解剖・細胞組織学講座
教授 下田 浩

昨年四月一日より生体構造医科学講座（神経解剖・細胞組織学講座併任）教授に就任いたしました下田浩と申します。

私は一九八八年に大分医科大学を卒業しました後、同学の外科学講座第二（内田雄三教授）に入局するとともに大学院（病理学・中山巖教授）に進学し、研修医としての指



「腫瘍内科」の目指すところ
大学院医学研究科腫瘍内科科学講座
教授 佐藤 温

昨年七月十六日付で腫瘍内科科学講座教授を拝命いたしました。「腫瘍内科」は、がんの患者さんに対して臓器横断的に薬物療法を中心として治療する、抗がん剤治療の専門診療科です。すべての医学部

にあるわけではなく、比較的新しい診療科です。日本では、生涯のうちがんに罹患する可能性は、男性で五割、女性で三割と推計されています。現在死因の第一位であり、毎年三十万人以上の方が

がんに命を落とされ、さらにその数は高齢化と共に増加していきま

構造医学講座）に籍を置かせていただきました。それ以来、肉眼解剖学、組織学、中枢神経解剖学を含む解剖学全般の教育と研究に従事させていただいております。

生体構造医科学講座ならびに神経解剖・細胞組織学講座が教育を担当しています。肉眼解剖学および顕微解剖学は全ての医学の基盤となるものであり、医学を志すものが必ず学習しなければならぬ学問です。医学・解剖学

の一番の教育者は生命の煌めきを本学に委ねてくださった方々であり、その声が最大限に学習者に届くように尽力するこ

しなければなりません。さらに包括的ながん医療の実践のためには、ほぼ全ての医療職が積極的にかつそれぞれが専門的に関与してもらう必要があります。その先に答えがあるものと確信しております。

薬物療法の対象となる固形がん患者さんの多く

資料館から 医学研究科ブース

昨年十月に弘前大学資料館がオープンしまし



とが私たちの使命と考えています。研究面では「リンパ管とは何か？」を当教室のメインテーマとして、リンパ管の発生とがん関連リンパ管新生のメカニズムの解明から様々な病態治療戦略開発研究のための新しいツールとなる三次元脈管培養組織の確立まで、リンパ管を中心とした研究をこの弘前の地から拡げていきたいと存じます。

私自身は愚直に進むしか能がない若輩者ですが、教室員と力を合わせてこの伝統ある解剖学教室を出来る限り発展させていきたいと願っています。

は治療が期待できません。けれども、医療は不老不死を目指しているのではありません。病によりもたらされた苦痛を和らげ、日常を支援するためにあります。桜を見て、そして桜を美しいと素直に喜べる豊かな社会に少しでも役立ちたいと思っております。

た。大学の歴史を語る貴重な資料が展示されています。

医学部は医専校旗や昔の種々の研究器具、掛図、医学部二十周年・三十周年記録、ダ・ヴィンチ解剖手稿等が配置され、また各研究科の概要をデジタルパネルで見ることが出来ます。

「先人の業績」コーナーには高橋信次先生、尾山力先生、松木明知先生の上梓された著書も展示されています。

医学部保健学科

被ばく医療への取り組みと 被ばく医療総合研究所の活動



大学院保健学研究科教授
被ばく医療総合研究所所長
柏倉 幾郎

弘前大学は、万が一の放射線被ばく事故への備えとして、平成二十年四月から保健学研究科を中心とした被ばく医療のための人材育成と体制の整備事業に取り組み、平成二十一年七月には医学部

附属病院に高度救命救急センターを設置する等被ばく医療のバックアップ体制の整備を進めてきました。くわえて、科学技術戦略推進費による事業として「被ばく医療プロジェクト」を平成二十二年

度からスタートさせました。これは青森県の地域再生計画の一環として計画され、研究所はその推進母体として本事業を進めております。

私は、初代の佐藤敬被ばく医療総合研究所・所長（当時・医学研究科長、現・弘前大学学長）から引き継ぐ形で、大学院保健学研究科との業務で平成二十四年二月一日付で所長を拝命しました。当

研究所は、平成二十二年三月に被ばく医療教育研究施設として設置され、同年十月に研究所と改名し現在に至ります。

こうした様々な取組のさなかに、平成二十三年三月十一日の東日本大震

災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故が発生しました。弘前大学は、三月十五日に緊急被ばく医療チーム派遣の要請（文部科学省）を受け、被ばく医療専門チーム（被ばく状況調査チーム

中甸に甲状腺モニタリングを実施③弘前大学の派遣チーム個々の被ばく量を測定評価―これらの結果は、専門国際学術誌を通して情報発信済みです。さらに同年九月には、本学と福島県浪江町との間で連携協定を結び、学内に学部横断的な「浪江町復興支援プロジェクト」が組織され、大学より戦略推進費の支援を受け、現在も地域の環境調査や住民の健康調査等様々な活動を展開しております。

また、平成二十三年十二月一日からの六日間、佐藤敬医学研究科長・被ばく医療総合研究所長（当時）以下八名で、ウクライナ・キエフを中心

にチェルノブイリ原子力発電所事故に関連する施設などを視察し、二十五年が経過しても事故は未だ収束していない実態を目の当たりにしてきまし

た。こうした点を学内関係者で共有する事に加え、特に高い汚染をこうむったウクライナ隣国のベラルーシを訪問し、より多くの情報収集を目的に新たな視察を平成二十四年度に企画しました。

この視察は、弘前大学で被ばく医療教育・研究に関わる様々な専門分野の教員を中心にした十八名で組織しました。参加者を二班に分け、平成二十四年十月二十二日から十一月五日までの期間それぞれ八日間の日程で、チェルノブイリ原子力発電所をはじめ、ベラルーシ国内の教育、医療および研究施設を訪問しまし

保健学研究科ブース

昭和二十六年の医学部附属看護学校の設置から平成十九年の大学院（博士課程）設置までの歩みを知る事ができます。

変遷を記した年表をはじめ、附属看護学校等の木製看板の展示もあり歴史の重みを感じ取れます。

また、歴代の看護学生の実習用ユニフォーム、人体骨格タペストリー、リハビリ用器具、化学天秤、回転陽極エックス線管等も紹介されており目を引

理工学部



「自分らしく、 チャレンジ無限大。」

みちのく銀行
取締役兼常務執行役員

松木 昭彦

(昭和55年 理学部化学科卒)

私は、昭和五十五年に理学部化学科を卒業し、専門とは全く畑違いの「みちのく銀行」へ入行しました。でも畑違いというのはひと昔前の話、最近の銀行は、確率、統計、金融工学といった高度な数学系の知識が必要になる分野もありますし、近年の就職事情の悪化も手伝ってか、理系の人達の入行も珍しくなくなりました。



弘前市防災マイスター 養成講座への全学的な協力

大学院理工学研究科 准教授

片岡 俊一

弘前大学では、東日本大震災に対して様々な対応を行ってあります。その内容は、大学のホームページに全て掲載されていますが、ここでは大学ならではの取り組みとして、弘前市の「防災マイスター」養成講座への協力について紹介します。

弘前市は震災の前年に行われていた弘前市職員の自主的な勉強会の成果を踏まえ、平成二十四年度から、地域防災の推進者となる「防災マイスター」を養成する事業を開始しました。

入行当時のことを思い出すと、事務職を希望していましたが、若手の銀行員というのは「もう営業職」でした。また、銀行は三年から五年を目途に転勤しなければならず大変でしたが、振り返ってみると、いろいろなお客さまと知り合え、育てていただき、とても有益だったと思います。その後、少し専門的な業務に携わりたく、奮起して外国為替業務を目指したのは、外回りの営業活動にもだいぶ慣れて来た頃でした。そして、銀行員として中堅クラスになった頃、外国為替・国際業務を主に担当しました。

時代は大きく変わり、個人がインターネットを介して世界とつながる時代。銀行の業務も、私が入行した頃に比べると大きく変わりました。伝統的な銀行業務に加え、投資業務、保険業務、コンサルティング業務、ビジネスマッチング業務など多岐にわたります。また、地方銀行は地域のリーディングカンパニーとして、地域貢献や地域発展への尽力が益々求められる時代となりました。

今、みちのく銀行が必要素としているのは、ふるさとを何とかしたいという思いを強く持ち、旺盛なチャレンジ精神で前向きに取り組む人です。みちのく銀行では「自分らしく、チャレンジ無限大。」を掲げ、広く人材を集めています。自分の可能性に挑戦したい人、我々と一緒に働きませんか。



第二の故郷・弘前

千葉県市長会長
東金市長

志賀 直温
(昭和46年 園芸化学科卒)

私の弘前の思い出は、入学試験の会場から始まります。その場所は弘前南高校であったかと思いますが、当日、試験会場の教室で緊張して試験に臨んでいた私の脇で、教室を巡回していた担当官が立ち止り、しげしげと私の受験カードを見つめたまま暫く離れませんでした。

なんだろうという思いを残したまま、やがて試験は終わり、そのことを忘れかけた頃、「サクラサク」という電報に続いて、弘前から一通の葉書が届きました。

その葉書こそが、私に運命を感じさせるものでした。それは当時の農学部教授であった伊東豊治先生からのものであり、入学したらご自宅を訪れるようにというものでした。

その翌日、私は空手道部に入部しました。高校時代からなんとなく憧れていた武道に我が身を置きたい思いからでしたが、入部してから知った顧問がなんと伊東先生だったのです。

もう一つ、別の運命の出会いもありました。私が高校を卒業する数日前に、物理学の先生から、私より二年上級の教え子が弘大に在学しているのので、ぜひ探して会うようにと言われました。それは「J先輩」という方でしたが、私が空手道部に入部したその日、春合宿をしているという生協の二階に手続きのために連れていかれたその場所でお会ったのが、その「J先輩」その人でした。

その後、体調を崩してしまった私は、一年生の夏休みを検査入院のために大学病院で過ごす羽目になりました。その間に外泊許可をもらい、青森市内の部活の同級生宅に泊まり込み、当時彼のお父さんが観光協会の役員をされていたことから、「ハネット」の装束をお借りして「ねぶた」に参加したのも良い思い出です。

入院の結果は、当分過激な運動は避けるようになります。

資料館から 理工学研究科ブース

大学院理工学研究科・理学と工学が調和した理工融合学部ですが、その前身は、文理学部理学科、そして理学部でした。そこでは自然科学の探求が主だったので、展示ブースには、自然界に存在する鉱物や自然現象に関する展示物、また物質の構造や現象を解き明かすための分析や計算に纏わる展示物が多く並べられています。工学と融合してからの学部の歴史はまだ浅く、工学系の展示物はまだ少ない状況ですが、今後増えてゆく楽しみがありますので、折あるごとに足を運んでいただければと思います。



資料館から 農学生命科学部ブース

農学生命科学部の過去と現在を知ることのできる興味深い展示内容となっています。旧制弘前高校、文理学部、旧理学部(生物学科)、旧農学部時代を含む幅広い年代の

資料の中から初期の顕微鏡やキモグラフなどの実験機器類、動植物標本などを多数展示しています。さらに、リング園の一年間の作業内容と本学部と関わりの深い「リング研究の歩み」をわかりやすく解説したパネルや、産学協同研究の成果であ

る「清水森ナンバ」を紹介(実物と製品)しています。また、学生生活を紹介します。オコナーもありません。



人文学部

弘大同窓生の方々へ



人文学部長 今井 正浩

平成二十五年四月一日 になります。

をもって、人文学部長に就任いたしました。昭和三十五年（一九六〇年）に山口県に生まれ、大学進学とともに上京し、以後十七年の間、東京で過ごしました。弘前に赴任したのは平成八年（一九九六年）ですので、本年十八年目ということになります。

変化を楽しむ



県立郷土館学芸課・研究主幹（歴史分野担当） 本田 伸

（昭和56年 人文学科日本文化コース卒）

弘前大学には五年間、お世話になりました。一年間余計に通ったのは勉強が好きだったから？ではなく、卒論サークル・就職など、いろいろな事情があったからです。卒業後、念願の高校教師として歩みはじめた私は、昼は日本史の授業に、放課後は野球部の指導に燃える日々を過ごしました。

そんな九年間の教師生活は、青森県立郷土館への転勤で中断します。学校現場から学芸課へ。ヒトからモノを相手にする仕事へ。その違いにともなう、学生時代にやっておいた古文書の勉強が活きて、歴史研究にも少しづつ自信が持てる

前提としたものであり、本学部の学生は、自分が専門とする学問分野についての研究を無理なく進めていくとともに、他の学問領域への知的関心を深めていくことが出来ます。わたくしは、おもに哲学・思想史系の授業を担当しておりますが、経済学や法学、社会学等を専門とする学生諸君の受講も決して少なくありません。わたくしの授業の受講者から「哲学というものに對するこれまでのイメージが一変した」といった声を聞くとき、教員にとって、これほど嬉しいことはありません。

わたくし自身は、確かな見識をそなえた若い人材の育成こそが、真の意味での地域貢献・社会貢献につながると思っております。現代のようにモノと情報錯綜的に溢れかえる時代の中で、いたずらに流行を追い求めるのではなく、私たち人間の歴史と文化、先人たちの努力によって培われてきた学問的伝統に對する深い崇敬の念を絶やすことなく、着実に未来を志向する——そのような人材の育成こそが、大学がになうべき、最大の課題の一つではないかと考えております。

待されるため、決して楽な仕事とは言えませんが、「何でもやってみよう」と前向きに切り替えられたのが良かった、ということでしょうか。ここでは本当に、良い勉強をさせてもらいました。

その後、県史で四年過ぎ、高校教師に戻って三年が過ぎたところで、また、県立郷土館に呼ばれた。古代トルコ語の物質

資料館から 人文学部ブース

人文学部は「過去から現在までの有形・無形の知的資産の継承と、それらのより豊かな発展をめざします」との理念に基づき資料の展示をしています。

主な展示品は、イタリアルネサンスにおける象徴寓意図の世界、パナギューリシユテの遺宝（レプリカ）、徳川家光御内書津軽信義宛 寛永



東京同窓会

二十七年ぶりの徽章



東京同窓会会長 津田 良司

弘前は新緑の眩しい季節でしょうか。六月に入りますと、太宰治文学碑そばの牡丹が美しく咲くことでしょうか。

弘前大学の校章がこの牡丹の花であることはあまり知られていません。卒業生のほとんどが、徽章のモチーフは、リンゴの花だと思っています。

牡丹は、幾重にも重なり合う花弁が大輪の花となり、実に存在感のある花です。

それはまさに弘前大学の目指す姿とも言えます。この校章は、日本のどの大学の校章と比べても、ひととき美しく威厳のある校章だと思いませんか。



期、古代トルコ語の物質供出命令文書、敦煌の石窟寺院の尼僧像など。ユニークなものでは「いがめんち研究」の紹介などもあります。

また、東京同窓会では旧制弘前高等学校の先輩との交流もあり、全国の旧制高校出身者が集う、寮歌祭にも参加しています。

「莊子」内篇逍遥篇 北溟有魚 其名為鯢（北溟に魚あり、其の名為鯢と為す） 鯢之大 不知其幾千里也（鯢の大きき其の幾千里なるかを知らず） 化而為鳥 其名為鵬（化して鳥と為るや、其の名を鵬と為す）

七年前の事です。思い違いでなければ、うれしいお話です。代々応援団長が継承していると聞きまして、ここにも世代を超えて旧制高校の伝統は生きています。

以前より、私は、大学の応援団の設立を夢見ていました。地域に温かく見守られ母校のプライドを背負い活躍できる集まりです。あちこちで集めた釣鐘マントは、現在八着あり、できれば、朴歯にマント・学帽の出で立ちの応援団が理想です。二十年後の生きがいの一つは、こんな後輩と母校の応援をして行く事と思っています。



hdeimr@snd-p.com
r10125217@nifty.com

東京同窓会では、旧制弘前高等学校校同窓会より譲り受けた「弘高 青春物語」VHSビデオ 鈴木清順監督・製作 旧制官立弘前高等学校を有料ですがお譲りしております。大変貴重なものです。メールにてお問い合わせください。東京同窓会事務局 メールアドレス



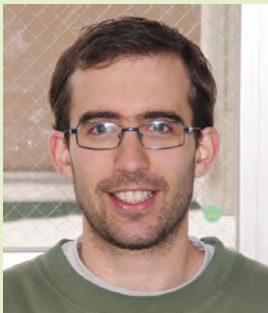
人文学部
権智 智教授
(ニュージーランド)

初めて日本にきた時は、テキストで学んだ日本語が自分で使われているのが自分にとっておもしろ



人文社会科学部
モルナー・レヴェンテ
(ハンガリー)

私は二〇一二年から研究生をしている。弘前は二回目の留学なので、他の留学生が驚くような弘前の厳しい冬には驚くことはなかった。しかしながら、自国と全く異なる文化を持つ日本という国に住んでいると、いくらか経験者であろうと、「これは嘘でしょう」や「自分の国だったらあり得ない」と思うことが必ず起きる。この一年間私にも、向こ



ろかったです。学校で学んだモノを使えることが思えば思うほど本当に嬉しかった。もちろん、学校で学べないこともたくさん学びました。

初めて一人暮らしをしながら、冬には日本に帰る前から噂で聞いた「スゴイユキ」を体験し、春は言葉で説明できない日本の美しさを弘前公園で見たし、夏は楽しく学生たちと毎日過ごしました。

出会った人たちはみんな優しく

ち、新しい環境など、色々なことに適応しなければなりません。弘前では、自分が今まで思っていた考え方や態度などを全部壊して新しく変えられないうちに、弘前市石川にある東奥義塾高校の図書館に週二回、弘南鉄道を利用して通っていた。閲覧時間が午前中に制限されていたので、弘前でもあった優しい人たちに助けられた。弘前で出会った人たちは、弘前でもあった優しい人たちに助けられた。

自国では絶対ない貴重な体験に感動

た。それは忘れもしない。昨年十一月二十日のこと。史料調べる終え校舎を出て、大雪山の麓に到着。大雪のため午後二時まで運転を見合わせました。不安になり駅員さんに確認した。なんと電車は三時間も待たなければ来ないという驚くべ

「吉田賞」授与式



音楽会開催

平成二十五年二月十七日(日)に教育学部附属国際音楽センターの協力の「ポデウムコンサート」を開催いたしました。前日の悪天候で足下の悪い中、ご来場の皆様にとり心癒やされるひとときであったことと思



平成二十四年度は、人文学部四年生の福士裕也さんが九三・五五(九九〇点満点)のスコアで受賞し、二月十三日に吉田名誉顧問より授与されました。

弘前大学同窓会役員名簿

名譽顧問	吉田 豊	弘前大学元学長
顧問	遠藤 正彦	弘前大学前学長
顧問	佐藤 敬	弘前大学学長
顧問	東海林 恒雄	弘前大学同窓会前会長
会長	三上 翼	弘前大学同窓会会長
副会長	岡井 眞	弘前大学同窓会副会長
副会長	西澤 一治	弘前大学同窓会副会長
副会長	千葉 信行	弘前大学同窓会副会長
理事	建部 礼仁	弘前大学同窓会副会長
理事	鈴木 弘	弘前大学同窓会副会長
理事	工藤 睦男	弘前大学同窓会副会長
理事	鳴海 晃	弘前大学同窓会副会長
理事	小山内 暢	弘前大学同窓会副会長
理事	千葉 満	弘前大学同窓会副会長
理事	三浦 賢二	弘前大学同窓会副会長
理事	泉谷 雅昭	弘前大学同窓会副会長
理事	上田 敏雄	弘前大学同窓会副会長
理事	小笠原 潤	弘前大学同窓会副会長
監事	糠塚 いそし	弘前大学同窓会副会長

平成24年度 弘前大学同窓会決算報告書

1. 収入の部			
項 目	平成24年度予算額	平成24年度決算額	
前年度繰越分	2,563,582	2,563,582	
同窓会費			
人文学部同窓会	276,000	276,000	
教育学部同窓会	192,000	192,000	
医学部医学科同窓会	84,000	125,000	
医学部保健学科さくら会	160,000	160,000	
理工学部同樹会	240,000	240,000	
農学生命科学部同窓会	148,000	148,000	
預金決算利息	500	351	
計	3,664,082	3,704,933	
2. 支出の部			
項 目	平成24年度予算額	平成24年度決算額	
印刷費	400,000	373,905	
役務費	246,000	247,000	
会議費	50,000	47,472	
旅費	50,000	4,910	
通信費	10,000	6,736	
消耗品費	3,000	0	
雑費	40,000	21,920	
文化祭費	200,000	194,158	
東日本大震災支援活動費	489,024	355,088	
予備費	2,176,058	2,453,744	
計	3,664,082	3,704,933	

平成25年度 弘前大学同窓会事業予算書

1. 収入の部			
項 目	平成24年度決算額	平成25年度予算額	
前年度繰越分	2,563,582	2,453,744	
同窓会費			
人文学部同窓会	276,000	276,000	
教育学部同窓会	192,000	192,000	
医学部医学科同窓会	125,000	85,600	
医学部保健学科さくら会	160,000	160,000	
理工学部同樹会	240,000	240,000	
農学生命科学部同窓会	148,000	148,000	
預金決算利息等	351	400	
計	3,704,933	3,555,744	
2. 支出の部			
項 目	平成24年度決算額	平成25年度予算額	
印刷費	373,905	400,000	
役務費	247,000	380,072	
会議費	47,472	50,000	
旅費	4,910	50,000	
通信費	6,736	10,000	
消耗品費	0	3,000	
雑費	21,920	40,000	
文化祭費	194,158	150,000	
東日本大震災支援活動助成費	355,088	133,936	
繰り越し・予備費	2,453,744	2,338,736	
計	3,704,933	3,555,744	

平成25年度 弘前大学同窓会事業計画

1. 事業内容	
(1) 大学現況内容等の会報(年1回)の発行	
(2) 各同窓会間の連絡調整	
(3) 講演会又は音楽会の開催	
(4) 弘前大学総合文化祭への参加	
(5) 東日本大震災支援活動	
2. 事業費	
(1) 印刷費	400,000円
(2) 役務費	380,072円
(3) 会議費	50,000円
(4) 旅費	50,000円
(5) 通信費	10,000円
(6) 消耗品費	3,000円
(7) 雑費	40,000円
(8) 文化祭費	150,000円
(9) 東日本大震災支援活動助成費	133,936円
事業費計	1,217,008円

平成25年度「吉田基金」事業計画

1. 事業内容	
(1) 国際化教育支援	
2. 事業費	
(1) TOEIC副賞	200,000円
事業費計	200,000円

平成24年度「吉田基金」決算報告書

1. 収入の部			
項 目	平成24年度予算額	平成24年度決算額	
前年度繰越分	2,598,483	2,598,483	
預金決算利息	1,000	417	
計	2,599,483	2,598,900	
2. 支出の部			
項 目	平成24年度予算額	平成24年度決算額	
TOEIC受賞者副賞	300,000	100,000	
予備費	2,299,483	2,498,900	
計	2,599,483	2,598,900	

平成25年度「吉田基金」事業予算書

1. 収入の部			
項 目	平成24年度決算額	平成25年度予算額	
前年度繰越分	2,598,483	2,498,900	
預金決算利息等	417	500	
計	2,598,900	2,499,400	
2. 支出の部			
項 目	平成24年度決算額	平成25年度予算額	
TOEIC副賞	100,000	200,000	
繰り越し・予備費	2,498,900	2,299,400	
計	2,598,900	2,499,400	

編集後記

同窓生の皆様に対し「弘前大学職業別同窓名鑑」の発刊案内のハガキが届いているようです。本同窓会及び各学部同窓会、弘前大学とは一切関係がありません。現在、個人情報に関する調査及び委託は一切行っておりませんのでご注意ください。

◇教育の充実を掲げて就任された佐藤敬学長から一年間を振り返っても、ラウンジや資料館の開設を始め、海外に国際交流の拠点を増やして、更なる教育の充実を目指すという力強い言葉を頂いた。◇今回の同窓会報十四号では、昨秋にオープンした資料館を特集した。遠藤正彦前学長の時代に歩みながら、弘大の歩みになっており、学部ごとにブースを紹介しても良かった。◇会報に寄稿される方が数少ないという現状があることから、次回からは多くの投稿を望みたい。(慕)

会報編集委員会名簿

委員長	中坪 勝
委員	安規・佐々木 健
委員	浩二・佐藤 眞
委員	哲文・小山内 暢
委員	周平・一條 健
委員	松本 明・松崎 正敏
委員	津田 良司・伊森 英明
委員	工藤 睦男
連絡先	弘前大学同窓会事務局
FAX TEL	01772(3639)3490
TEL	01772(3639)21332
E-mail	jim3490@cc.hirosaki-u.ac.jp